

## 平成24年度 国立吉備青少年自然の家 教育事業

### 自然体験活動指導者のためのフォローアップ研修

平成25年1月12日(土)～1月14日(月) 2泊3日

#### 1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

自然体験活動指導者や宿泊体験活動を担当する学校の教職員を対象に、経験に応じて、青少年を対象とした自然体験プログラムや活動プログラムの企画・運営、評価の方法等について研修を行う。

#### 2. 事業の概要

- (1) 日程 平成25年1月12日(土)～14日(月) 2泊3日
- (2) 募集人数 20名(先着順)
- (3) 参加者 10名(13名の応募あり, 内3名キャンセル)
- (4) 講師 アウトドア・エデュケーションセンター 兵庫センター長 志村 誠治 氏  
アウトドア・エデュケーションセンター 神奈川センター長 鈴木 浩之 氏
- (5) 企画・運営のポイント

昨年度は、体験活動推進プロジェクト「自然体験活動指導者養成研修」を受講した全体指導者を対象に、「小学校の長期自然体験活動」の目的・目標にあったプログラムを作成することを通し企画力を身に付けるフォローアップ研修として実施した。

今年度は、全体指導者以外の自然体験活動指導者にも参加していただけるように、研修で扱う題材を「小学校の長期自然体験活動」に限定せず、「青少年を対象とした自然体験活動」とした。

#### 3. 事業の内容

##### (1) 日程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	19	20	21	22
1/12			開講式	研修①	昼食		研修②	つどい	夕食	研修③	入浴	就寝		
1/13	つどい	朝食	移動	研修④	昼食		研修⑤	つどい	夕食	研修⑥	入浴	就寝		
1/14	つどい	朝食	片付け	研修⑦	昼食	研修⑧	閉講式							就寝

##### (2) 内容

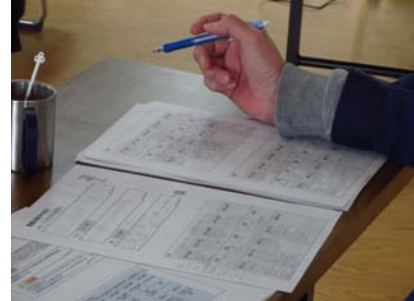
- 研修① アイスブレイク, 企画する事業の対象の現状分析
- 研修② 目的・目標の設定(ロジックツリーの活用), 各コマのねらい設定
- 研修③ 中間発表
- 研修④～⑥ ねらいに合った活動の選択, 各活動の運営方法, 指導上の留意点

プログラムの企画立案，事業の評価について  
研修⑦⑧ 企画のプレゼンテーション

(3) 研修の様子



現状分析をもとにねらいを設定



事業の骨子とプログラム作成

## 4. 成果・課題

(1) 成果

中学生や幼児を対象とした事業の企画を取り扱う参加者もあり，架空の設定ではなく実際に自分が携わる事業を題材に研修を受けることができ，研修が効果的になった。

(2) 参加者のアンケートより

①研修全体を通じた満足度 100% (満足…60%，やや満足…40%)

②参加者自由記述

- ・自分が気付いていなかった方法での企画方法を知れて良かった。
- ・押しつけの講義だけではなく，自分から考える機会になった。
- ・骨子という考え方，今まで曖昧にしかやっていたことを手法として捉えられた。
- ・対象の現状や活動のねらいを掘り下げて考える方法を学べたのは大きかった。
- ・作業の進行状況の違いから多少中だるみがあった。
- ・持ち帰るものが少なかった。

(3) 課題

アンケートに「効果的な自然体験活動プログラムの企画方法を身に付けることができたか？」という項目を設けたところ，「身についた(1名)、やや身に付いた(7名)、あまり身につかなかった(2名)、身につかなかった(0名)」という結果となり，「具体的なアドバイスが少ない」，「参加させっぱなし(作業ばかり)」という感想もあった。

「企画力」というテーマで研修を実施する場合，研修中に企画したプログラムを実施することで「学んだ企画力」を感じることができるのではないか。

そのため，数時間の「活動」を題材に企画し，それを研修期間中に実践・評価した上で，さらに内容を検討するといった「企画→実行→評価→改善」というPDCAサイクルを一巡させた方が具体的な学びになるのではないか。

担当：企画指導専門職 渡邊 剛志